

東由利村報

No. 44 35·5·20

発行所 秋田県東由利村役場
印刷所 株式会社 本間印刷所

紙面案内

- | | |
|----|-------------------|
| 1面 | 大琴診療所完成、森林組合の新役員 |
| 2面 | 林野管理区分策定の話しあい |
| 3面 | 乳牛導入、文化財保護協会支部の結成 |
| 4面 | 公民館運営審議員 |



完成した大琴診療所の全景、地区の人々の結束の力がこの大きな遺産を生みだしたのである。

この診療所建設にあたつての経
事業費は一三一万円で建物建築
に要した費用九〇万円、器械器
具備品三六万円、電話、水道な
ど設計外諸費五万円がその内訳
である。これには国庫補助金六
一万円の他、村補助金三〇万円
農協補助金一〇万円、地元負担
金三〇万円がそれぞれ充てられ
ている。設計は小野田治雄氏（
秋田市）工事請負は大沼一広氏
で今年二月から着手され、整地
作業など工事にも地元民の積極
的な協力を得て今回完成をみた
ものである。

このほど完成した診療所は木造モルタル仕上平屋建二十五坪のモダンな建物で、内部は診察室、処置室、レントゲン用暗室、待合室、医師及び看護婦の居室などに分け、備付けられた医療器具備品は四〇ミリエックス線装置他三七六点で大方の診療もまでは万全である。

総事業費一三一万円

レントゲン装置など
三七六点の器具備付



地元関係十四部落民により診療所設置の話しあいが進められ、とにかく具体的な動きとして盛りあがめられたのは昨年の暮頃であるからまつたく急ピッチの進展ぶりである。

これはいろいろな困難な問題にうちあたりながらも地元民ならびに農協、村がこぞつて力を結束して厚生連やその他の関係機関に働きかけ、これらの関係機関の理解と援助に助けられたことはいうまでもないが特に地元民の熱意がこれをゆり動かしたものとみるのがだ当たりだ。

わけても大琴地区に診療所を設

機関の理解と援助に助けられたことはいうまでもないが特に地元民の熱意がこれをゆり動かしたとみるのがだ当のようだ。

わけても大琴地区に診療所を設置して経営として成り立つかどうか、という最初の疑問として

喜びの落成式風景



早期完成物をいたたかう

は婦人と老人だ、と地元の人々は口を揃えていた。何ものにもかえがたい体の支えができ、明るい生活への自信もこれで持つことができたのである。

大火で一物なく焼け出されて復興にけん命な大琴部落を中心にしてこれまで簡易水道の布設、集団加入電話の導入などを実現してきた。そして今回の診療所の完成である。

人間の結束という大きな力を信じ、それを守つて大琴地区の人々は限りない発展の条件をまた一つきり開いたのである。

森林組合の役員

村森林組合の役員は四月十七日で任期満了となるので四月十日選挙を行う予定であつたが届出のあつた候補者が定員を超えたため次のとおり無投票当選と決った。

長沢	毅（再・老方）
小松久一郎	（再・館合）
小松	広吉（新高戸屋）
高橋	重助（再・新田）
阿部	竹雄（再・杉森）
遠藤藤左工門	（再野田）
木島	節造（新・新田）
畠山	正（再・袖山）
佐藤	文助（再・黒淵）

森林組合では四月二十日新しい役員による役員会を開き、組合長に小松忠一郎、同副に畠山正代表監事に佐藤文助氏をそれぞれ選出した。

引きなおす"山の設計図

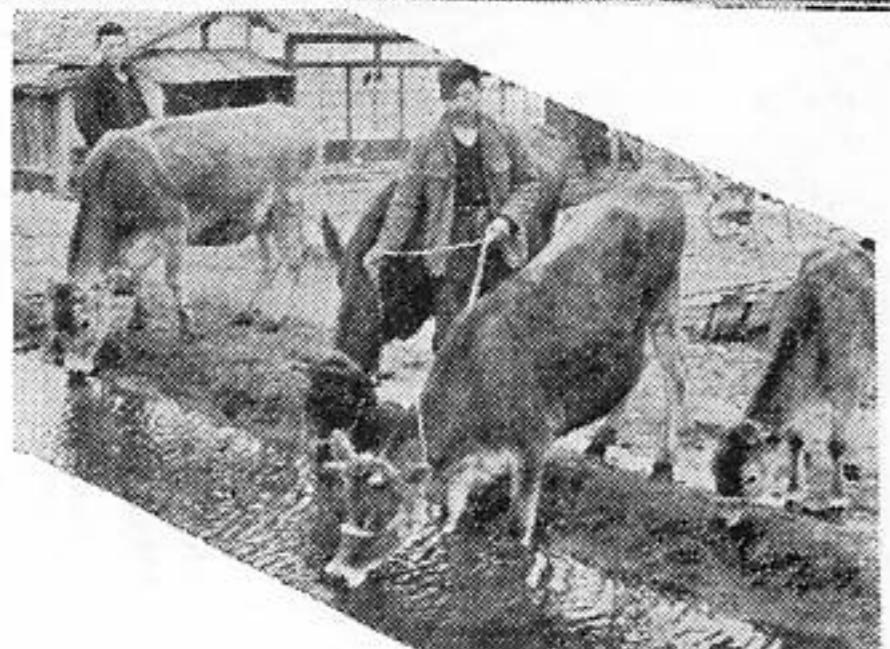
近年にいたつて酪農事業をとり入れたこととあわせて基本財産となる森林資源造成の必要から

林野、特に原野の管理区分を再検討して新しく策定する問題を話しあうため四月十九日村議会議員、財産区管理委員、森林組合役員、部落代表などの関係者が役場に集り協議会を開いた。

る拡大な原野をかかえている。今まで放任状態であつたこの原野を計画的に高度に開発した場合すばらしい資源を持つことができることはいうまでもなく、その前提となる管理区分を新しく策定することはとりもなおさず村百年の大計のもとに山の設

本村にとつてはきわめて重大な課題である。この管理区分案策定の大綱は、基礎となる大家畜や中家畜頭数と田畠の面積より改良草地と自然草地面積を割出して確保し、他は造林地にしようとするものである。まず三十七年度以降の家畜飼育頭数を大体馬三百頭、和牛六百頭、乳牛五百頭と抑えその他中家畜一〇頭につき和牛

一頭分の面積をみて全体でこれらに要する改良草地二百五十町歩、堆肥用の自然草地一千三百町歩をみこみ、残り一千四百町歩は造林地として基本財産を造成し安定した農家経済と村財政をきずきあげようとするのがね



世界平和につながる

赤十字に加入を

運営は社員となつて納められる社費でまかなわれる。これに加入することは個人の利害得失のためでなく、『赤十字』の旗じるしのもとに社会福祉衛生の向上と世界人類の幸福、ひいては平和への一つの役割を果すという大きな意味をもつもので、さらに社業を伸長させるため今年の運動は早期目標額の達成と新規加入の

ジヤージー牛導入の最後となる
第四陣は四月八日到着した。
今回は八九頭予定されていたが
配船の関係でこれを下廻り六〇
頭である。

これで導入牛の総数は二一五頭
となり当初計画より十九頭減と
なつたが、飼育者たちは振興計
画の最終年次である三十七年度
以前に五〇〇頭にしてみせると
意氣こんでいる。

ジャージー牛の最終導入60頭

村議會議員

しかし本村の村道、林道とも近年トラックや三輪車の使用が増加して荒廃が著しく一年度の予算のお手盛りでほとうてい及ぶ



下さい。【農業委員会】

「おことわり」

促進に力が注がれる。

となつており、本村では五月二十五日を最終目標に各部落長を協力委員に委嘱して全戸を訪問し協力を願いすることとなつてゐる。

◇正社員　社費年額百円以上

◇特別社員　一時または数時に三千円以上＝銀色
社員章・一万円以上＝金色
色社員章

◇有効社員　一時または数時に五万円以上＝銀色
有功章・十万円以上＝金色
色有功章

社員は個人法人の別なく加入で
きる。

出張農地相談所を
開きます

館合IIのうちでは前回までに二頭の牛を入れ、また今回一頭入れた。仔牛を加えるともう四頭である。こんな風景ももう本村ではめずらしくなくなつた】

砂利の補強、橋梁整備など全般の計画とてらしあわせて実情を詳細に視察調査した。

年度は部落毎に農家の休日等を利用し出張相談をしたいと思います。

【写真（上）】ジャージー牛を満載した車は続々到着、待ちわびる飼育者たちの手にそれぞれ引渡された（下）畠山良一さん＝海外同胞の引揚や留守家族の援助、災害救援など社会の福祉

此災害報誌が社会の福祉厚生に挺身していける日本赤十字社ではこの五月一っぱいを社費増強運動期間として社員全戸加入を目標に運動が展開され

で組織される特殊法人で運営は社員となつて納められる社費でまかなわれる。これに加入することは個人の利害得失のためでなく、『赤十字』の旗じるしのもとに社会福祉衛生の向上と世界人類の幸福、ひいては平和への一つの役割を果すという大きな意味をもつもので、さらに社業を伸長させるため今年の運動は早期目標額の達成と新規加入の

育委員会で次のとおり選任し、四月一日付で委嘱した。

この他に団体関係として青年団体より一名選任する予定であるが現在未定となつてゐる。

なお任期は二年である。

佐藤松之助・木島正造・戸村忠（以上学校長）長沢毅（農業団体＝農協）佐藤儀平（民生委員）阿部マサエ（婦人団体）小松忠一郎・畠山正・阿部儀平・小松慎一（以上学識経験者）

分館運営委員も決る各一〇名ずゝ

公民館分館の運営委員は各十名ずゝ次とのおり選任し四月一日付で公民館長が委嘱した。

分館運営委員も決る
各一〇名ずゝ

育委員会で次のとおり選任し、
四月一日付で委嘱した。

この他に団体関係として青年団
体より一名選任する予定である
が現在未定となつてゐる。
なお任期は二年である。

佐藤松之助・木島正造・戸村
忠（以上学校長）長沢毅（農
業団体＝農協）佐藤儀平（民
生委員）阿部マサエ（婦人團
体）小松忠一郎・畠山正・阿
部儀平・小松慎一（以上学識
経験者）

公民館運営審議会委員決意

四月一日付で委嘱

育委員会で次とのおり選任し、四月一日付で委嘱した。

において選挙その他適当な方法』と表現され、あいまいな点が多かつたので教育委員会では公民館の意見をとり入れて『運営審議会の会議の意見をきいて公民館長が委嘱する

』というよりに規則が改正された。またこれまで名称は『分館運営審議委員』となつていて本館の審議会委員と重複し、さらに性格上適当でないとして『分館運営委員』と改められたのである。

嫁に貰われるとかいつて、トツ
グ家の人々にとつては他人のよ
うに考えておるようです。だか
ら少しの 美しき

短所があ
ればおれ
の嫁はあ
ーだ、こうだとかいつて姑同士
の茶呑み話しになつてゐるよ
うであります。が、そこでこうした
考えは早速解消しなければなら
ぬと思ひます。

まづ一人前の嫁さんになるまで
に育て上げた親の心に思ひをい

美しきもの

即ち、其の家人にむべ
かようにて
トツグを
帰の字で
表してお

酪農事業の放送録音相次ぐ

全県で唯一のジャージー牛による酪農地帯に指定され、そのうちもつとも成績を上げて注目されている本村の酪農事業の実態を電波を通じて広く紹介しようとこのほど放送録音が相次いで行われた。

4月22日にNHK、5月7日ラジオ東北から訪れ、NHKは役場で村長はじめ農協の関係者、飼育者有志、ラジオ東北は草地改良事業を行っている大場台（老方地区）の現地で飼育者のそれぞれ生の声をテープにおさめた。なお放送はNHK4月26日ラジオ東北5月15日行われた。

【写真（上）NHK（下）ラジオ東北の録音風景、いずれもマイクを前にすると普段思っているこの半分も話しができなかつたとは、後で声を吹きこんだ人々の感想である】



保・藤原陽太郎・小松忠一郎・
小松順之助・畠山菊一・畠山友
蔵・小野治左工門

【法内分館】遠藤孫助・遠藤莊
二郎・伊東勝一郎・遠藤兵一・
佐藤イト・阿部力・阿部トイ・
遠藤熊太郎・千葉宇三郎・工藤
二三雄

【宿分館】戸村忠・佐々木正輝
大庭ナヲヨ・畠山清一・佐々木
トモ・佐々木直三郎・阿部義直
梅津二三雄・木島富次郎(一名
未定)

【玉米分館】佐々木十士朗・小

家畜共通会

畠山久雄・高橋孝一郎・畠山卓男・高橋民治郎・佐藤忠三・佐藤トヨエ

農業共済組合長に 小笠原氏

村農業共済組合では四月五日役員会を開き、新組合長に小笠原彦次同副に小松久一郎、代表監事に菅原鶴三郎、推選農業委員に高橋重助氏を選出した。